

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370479

研究課題名(和文) 朝鮮語古語辞典作成のための基礎的研究

研究課題名(英文) A fundamental study for compiling a new archaic Korean words dictionary

研究代表者

辻 星児 (TSUJI, Seiji)

岡山大学・社会文化科学研究科・特任教授

研究者番号：40108113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：代表者は、日本語で解説され、さらに日韓の言語交流史の情報を含んだ朝鮮語古語辞典を編纂することを企図し、そのための基礎的研究を行った。その成果は次の通りである。1) 中期朝鮮語(15-16世紀)の文献から基礎語彙と関連語(身体語、衣服語等)を選定し、基礎語彙の初出例文、日本語による解説を付して公刊した。2) 近世朝鮮語の口語資料『捷解新語』の対訳日本語付の朝鮮語語彙索引を作成した。3) 本研究にかかわる新たな言語資料を発掘した。この研究をとおして、古語辞典編纂に対する基礎固めができ、問題点を整理することができた。さらに、この成果を踏まえ、日本語韓国語の類似性について、韓国での国際学会で講演を行った。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to study the foundation for compiling a new archaic Korean words dictionary that is interpreted in Japanese and contains historical information of linguistic exchange between Japan and Korea. My major research accomplishments for the past three years supported by JSPS are as follows: 1) publication of academic studies about basic body and clothing related vocabulary selected from literature of the Middle Korean period, 15th to 16th century, along with example sentences of the first appearance and interpretation in Japanese, 2) compilation of a bilingual index of Cheophaishineo, a colloquial material in Modern Korean, 3) discovery of new linguistic materials related to the research. Through the research, I confirmed the foundation and identified problems with respect to the dictionary compilation. In addition, I gave a lecture on linguistic similarities between Japanese and Korean at an international conference in Seoul, which was based on this research.

研究分野：東アジアの諸言語に関する歴史言語学的研究：日本・朝鮮資料による朝鮮語史・日本語史研究；漢字音の研究

キーワード：中期朝鮮語 古語辞典 基礎語彙 朝鮮資料 日本資料 語彙研究 歴史言語学

また、各語の考察によって、明らかになった言語史的事項は注として指摘した。以下に一部をあげる(ハングルのローマ字表記は河野方式に依るが一部変更した)。

* 母音交替についての指摘例:

衣服項目 3. 「脱ぐ」(および 4. 「裸」)に対応する pas-ta, pəs-ta は、母音調和による派生形である(現代語は後者のみ)。ともに中期語では、「脱ぐ」を意味するが、用例を検討すると、pəs-ta は「逃れる」の意味でも使われるという意味分化があったようである。同項目 10 「靴」には、huə (丈の長い履物)が見られるが、これは「靴」の字音 hoaの母音(調和による)交替形である。この場合は借用語の母音を変化させることで、意味分化させたものである。(その他、身体 1. 「頭」および 2. 「髪」の mari, məri も母音交替による意味分化の例)

* アクセントに関する指摘例:

衣服項目 7 「うわぎ」の cyək-s a むひとえの上着)のアクセントは [HL] から [LL] に変化したと見られる。身体 27 「臍」p i s-pok も [HH HL] から [L L] の変化が見られた。同項目 8 「ズボン」(袴)の k o ぬい のアクセントは [LL] であるが、この語は、漢語「袴衣」で、漢字音の声調は [RL] である。さらに k o-ぬい には、k e- oi という交替形も見られる。また同項目 13 の「絹(織物)」p i tan のアクセントは、多様であるが整理すると、15世紀は [L H]、16世紀は [RH] が多いことが分かった。なお p i t a n は漢語、「緋緞」(p i- t a) からきてるとされるが、この字音アクセントは [L R] である。以上、借用語では、元の音韻やアクセントを変化させているものがあることが分かる。

* 語形の新旧:

身体 42 「毛」には、t ə ək と t ə r が見られるが、t ə ək > t ə r と推定した。

以上の基礎語彙の記述研究は、中期語の語彙全体から見れば、ごく一部に過ぎず、記述も不十分ではあるが、初めての試みとして(言語交流情報も加えたこと、関連語彙を網羅したこと等を含め)意義があった。いっぽう、いくつか問題点も出てきた。とくに文献的制約は最大の問題である。文献のジャンルに偏りがある(つまり仏典や儒教関係が多い)ことから日常的な基礎的使用語彙がどこまで現れているのかが不明であり、また多くが翻訳(「諺解」)であるという制約から漢語の影響があることが否めず、これが正確な意味記述を困難にしている。なお、意味記述に関しては、例えば、『三綱行実図』といったある程度口語的かつ均質的な文献の語彙を網羅的かつ微視的に検討、考察していく方法もありうることを提案した(以上、辻(2016))。

(2) 1676年に司訳院で刊行された『捷解新語』(成立は17世紀前半;全10巻)は、対訳朝鮮語付の日本語テキストである。この資料は、朝鮮語、日本語とも当時の口語をよく反映した質の高い言語史資料であり、研究代表者はすでに朝鮮語の総索引を作成している。今回、古語辞典編纂にあたっては、この資料を近世語語彙の重要な原資と考えている。しかもこの資料では、ほぼセンテンスごとに両言語が対応しており、朝鮮語一語ずつに対応日本語を引き当てるのが可能である。これによって、辞書に言語交流史の情報を取り込むことができると考えている。今回の研究期間を通じ、本資料の各朝鮮語語彙に対応する日本語を確定し、また、そこから代表的な対訳語を確定する作業を行った。当初は、文法要素(助詞、接辞等)も含めて、可能な限り対応日本語を確定したが、膨大な時間が掛かるため、途中からは、実質語(延べ語数8千語程度)に限定して作業を進めた。それもあって3カ年で本資料全体の作業は完成できなかったが、7,8割程度までは進んだと思われる。以下に、作成した対訳付語彙集(総索引)のごく一部を示す。(見出し語に添えられた日本語は代表的な対応語、代表語以外の対応語は各掲出位置の後に示す。なお「4-24b」等は巻4の24張裏等を示す。元のハングルはここではローマ字に直した)

mesyo(うまうし(馬牛)) 4-24b, 25a

【<mersyo】

me'em(こころ(心)) 1-4b, 5a, 2-16b, 3-17b, 9-9a, 17b, 21b ¶ ~ tairo 4-21a(こころままにも(心俥にも)), 29a(しんぢうにまかす(心中に任す)) ¶ ~ p'yan-heta(こころやすし(心安)) 6-14b ¶ ~ p'an-hi(こころやすう(心安)) 1-15a, 5-20b, 6-20a, 8-16b

mei'ya-he-ta(きよくなし(曲無)) ~ 'əy 2-12b

mech-ta(すむ(済む)) ¶ mes-3-21a, 4-4b, 6a, 14b, 15a(きわむ(極む)), 22b, 28a(すます(済ます)), 28b(同前), 8-15b(あいしむ(相染む)), 26b(しまう(仕舞う)), 32a(同前), 10-35a(相済); mech'e-4-5b(しまう), 26b(すます), 30a(同前)

完成後は、何らかの形で公開を予定している。

(3) 今回、上記のいくつかの機関で日朝言語交流史資料の調査を行い、従来十分に知られていなかった資料の発掘や「仮名書き朝鮮語」例を収集することができた。これにより朝鮮語古語に関する新たな知見を得ることができた。調査の結果、日朝言語交流史資料としては、東京都立中央図書館中山久四郎旧蔵文献では『草梁話集』、『征韓録』、『朝鮮琉球誌』、『御代々朝鮮人来朝之覚』、『日観考要』、『桑韓筆語』など、酒井家文庫伴友友旧蔵文献等では『朝鮮事記』、『朝鮮国風俗之事』、『朝

鮮国語』、『朝鮮(日)記』、『朝鮮物語』など、蓬左文庫では『朝鮮人來往記』などを確認した。これらの文献には「仮名書き朝鮮語」が多数含まれているものもあった。地名の仮名書きが多いが、それらは音韻史の資料となりうるものである。以下に、その一部の例を挙げる。

例：機張クチャン、全羅テルラ、元平ヲンヒヨン、咸興府ハムホンホ等(『征韓録』); 西生浦セツカイ、京道ケントウ、黄海道パンカイトウ等(『朝鮮琉球誌』); 堂洞アメ(ノミ)リヤゴリ、沙道原サストウバル、大峙ハンタイ(『草梁話集』); 七歩チルホ、(三枝)槍ザク、偃月刀ツン(マ)ラルトウ、コンチャン(楽器名)等(『御代々朝鮮人來朝之覚』); 西生浦セスカイ、永川エグセン、チンリン、カロウ等(大河内秀元『朝鮮(日)記』)など

このほか、各機関所蔵の朝鮮語史資料も調査し、新たな発見もあった。例えば、中山久四郎旧蔵文献中に一部(凡例)に傍点が付いた写本『訓蒙字会』(石峰系)を発見した。また、雨森文庫所蔵『吏文大師』(写本)は、従来取り上げられたことはなかったが、今回の調査で、本書は漢字にはすべてハングルで音が付けられており、カラム文庫本などとは異なる面を持っていることが分かった。

(4) 本課題研究の成果の一部を利用して、26年度には、研究発表「朝鮮王朝時代における日本語の研究と教育」を行った。日朝言語交流資料とりわけ司訳院倭学関係の資料を挙げながら、朝鮮時代における日本語研究とくに文法分析の深化を述べた。また27年度には、韓国で開かれた国際学術大会において、招請講演「日本語と韓国語の類似性 類型的、歴史的観点から」を行った。中期語の基礎語彙研究を踏まえて、両言語の表層的な比較研究を批判した。

(5) 上記(1)の中期語の基礎語彙についての記述は、国内外をとおして初めての試みであり、また今後、必要とされる「日本語による朝鮮語古語辞典」のための確実な基礎を提供するものとして一定の価値をもつと思われる。さらに、本研究で得られた基礎語に関する正確な記述は、文献を読み解く場合だけでなく、日韓語の系統論やアクセント研究のための確実な基礎データを提供することにもなるであろう。また上記(2)の成果である対訳付き語彙集は古語辞典編纂における主要な近世語データを形成することになるであろう。さらに、本研究で企図した日朝言語交流資料の情報を語彙に付加する試みは、日韓の長い文化交流の証として、また韓国語学と日本語学とを結び付ける点で価値を有するものと思われる。今回の研究の成果を踏まえ、今後、基礎語彙の確実な記述研究を拡

大・深化させつつ、それを核として、全体的な古語辞典編纂へと進んでいくことができればと思っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

辻 星児 「中期朝鮮語における基礎語彙 身体語およびその関連語」岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読無、第39号、2015、57-69

辻 星児 「中期朝鮮語における基礎語彙 衣服を表す語およびその関連語」岡山大学大学院社会文化科学研究科『文化共生学』、査読無、第15号、2016、95-105

〔学会発表〕(計2件)

辻 星児 「朝鮮王朝時代における日本語の研究と教育」; 岡山大学大学院社会文化科学研究科東アジア国際協力・教育研究センターシンポジウム「東アジアの中の日本学」, 2014年2月27日、岡山大学(岡山県岡山市北区)

辻 星児 「日本語と韓国語の類似性 類型的、歴史的観点から」(招請講演); 韓国日本研究団体第4回国際学術大会(韓国日本学会第91回学術大会)「ポスト20世紀の韓日関係と日本研究 境界を越えて」(後援 日本国際交流基金、社団法人韓日協会他) 2015年8月21日、韓国翰林大学校、春川市(大韓民国)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辻 星児 (TSUJI, Seiji)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・特

任教授

研究者番号：40108113

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：